

令和7（2025）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	イトヨリダイ	対象水域	太平洋中・南部 (千葉県・神奈川県・静岡県・三重県・徳島県・大分県・宮崎県)
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、千葉県水産総合研究センター、神奈川県水産技術センター、静岡県水産・海洋技術研究所 浜名湖分場、三重県水産研究所、徳島県農林水産総合技術支援センター水産研究部、大分県農林水産研究指導センター水産研究部、宮崎県水産試験場	協力機関名	

1. 調査の概要

千葉県では標本漁協の年間漁獲量を、神奈川県では標本漁協の釣りによるソコイトヨリを含む月別漁獲量を、静岡県では標本漁協の小型底びき網によるソコイトヨリを含む年間漁獲量を、三重県では標本漁協のソコイトヨリを含む漁業種別月別漁獲量を、徳島県では標本漁協の標本漁協別月別漁獲量とCPUEを、大分県では漁協別漁業種別月別漁獲量を、宮崎県では漁協別の年間漁獲量と一部の努力量を、それぞれ調査した。

2. 漁業の概要

本種は主に小型底びき網・底延縄・釣・刺網・定置網等で漁獲され、海域によっては近縁のソコイトヨリと区別されずに水揚げされる。

千葉県の主要3漁協（いずれも内房）におけるイトヨリダイ漁獲量は、2004～2010年までは50 kg前後であったが、2011年から増加し始めて2017年以降は210 kgを超え、2024年では275 kgとなった（図1）。

神奈川県的主要3港におけるソコイトヨリを含む漁獲量は、2015年以降1,000 kg前後で推移し、2024年では869 kgであった（図2）。

静岡県の標本漁協の小型底びき網によるソコイトヨリを含む漁獲量は、2004年、2006年、2007年に大きく増加したことを除いて2001～2011年までは3,000 kg前後で推移したが（最大は2007年の9,188 kg）、その後減少して2014年以降は1,000 kg以下で推移していた。2020年以降は若干の増加傾向にあり、2024年には1,052 kgとなった（図3）。

三重県の標本漁協におけるソコイトヨリを含む漁獲量は主に延縄と一本釣りによるものである。漁獲量は2011年および2012年には2,000 kgを超えていたが、2013年以降に減少し、2022年まで1,500 kg前後で推移していた。2023年以降は減少し、2024年は718 kgとなった（図4）。

徳島県のA漁協におけるソコイトヨリを含む漁獲量は、2004～2012年まで約6,500 kg

から約11,300 kgの間で推移し、2013年に増加して2014年には30,955 kgの最大値となった。2015年以降は2012年以前の水準に戻ったが、2021年以降に増加して2024年には13,730 kgとなった（図5）。B漁協におけるイトヨリダイの漁獲量は、2017年に4,945 kgの最大値となったが、その後は1,000 kg前後で推移し、2023年に2,000 kgを超えたものの、2024年は1,365 kgとなった。C漁協におけるイトヨリダイの漁獲量は、2019年の1,478 kgから減少して2024年には85 kgとなった。

大分県において本種は主に小型底びき網によって漁獲されている。漁獲量は、2012年までは10,000 kgを下回る水準であったが、2016年に21,282 kgに増加して以降、2022年まで15,000 kg前後の水準で漁獲量が推移した。2023年以降は増加傾向にあり2024年は過去最高となる47,840 kgの漁獲となった（図6）。

宮崎県のソコイトヨリを含む漁獲量は、2010年に最高の4,859 kgとなったがその後減少して2015年に621 kgとなった。その後、2018年には3,616 kgまで増加し、2020年にやや減少したものの、2024年の漁獲量は3,439 kgとなった。2012年以降、長期的には増減を繰り返しながら増加傾向にある（図7）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：鹿島灘から九州南岸の太平洋沿岸、新潟県から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海、朝鮮半島南岸、済州島、東シナ海大陸棚域、台湾、中国南部、ベトナム、フィリピン、およびオーストラリア北西岸の水深40～250 mの砂泥底に分布する（小枝 2018）。
- (2) 年齢・成長：日本海南西海域における最大標準体長は、雄では390 mm級および雌では320 mm級であり、雌より雄の方が大きくなる（小林 2004）。福岡市場に水揚げされた標本の鱗による年齢査定の結果、最高齢個体は尾叉長370 mm程度の4歳であった（Mio 1965）。これらの研究では、雌雄別の年齢と成長の関係を明らかにしていないが、近年では雌雄別の成長式が推定されて2歳以上で雄の方が大きくなることが明らかとなっている（和田・阪地 2024）。
- (3) 成熟・産卵：駿河湾では、雌雄ともに尾叉長180 mm以上で成熟する個体が現れ、産卵期は1～6月である（岩崎 1999）。一方、福岡市場に水揚げされた標本から推定された産卵期は6～8月で、その盛期は7月である（Mio 1965）。本種は体サイズにより性比が変化し、小型個体では雌が、大型個体では雄がそれぞれ多い（岩崎 1999、小林 2004）。このことから雌から雄への性転換が考えられたが、本種は精巢にのみ両性的構造を保持する痕跡的雌雄同体であり、卵巣には精巢組織が見られないことから、そのような性転換は起こらないと考えられた（Takahashi et al. 1989）。耳石輪紋による年齢査定および透明卵の確認と生殖腺熟度指数から、雌は2歳以上で、雄は3歳以上で成熟すると考えられた（和田・阪地 2024）。
- (4) 被捕食関係：成魚では、甲殻類・魚類・頭足類を、12 cm以下の未成魚ではカイアシ類・端脚類・貝虫類を捕食する（Eggleston 1972）。

4. 資源状態

イトヨリダイの近年5年間（2020～2024年）の漁獲量は、2004年以降の千葉県主要3漁協では高い水準にあって若干の増加傾向、神奈川県では横ばい、静岡県では2007年の最高と比較して低い水準で横ばい、三重県では減少傾向、徳島県B漁協では2017年の最高に比べると低い水準で増加、大分県では高い水準にあって増加、宮崎県では増加傾向であった。イトヨリダイの近年5年間（2020～2024年）のCPUE（1隻1日あたり漁獲量）は、2007年以降の徳島県B漁協では増加傾向にあり、直近年は過去最大となった（図8）。ソコイトヨリと区別したイトヨリダイの漁獲量データは少なく、漁獲量やCPUEから資源水準を判断することはできないが、ソコイトヨリを含むものも含めて近年のトレンドに大きな減少傾向は見られていない。

5. その他

ソコイトヨリと区別した漁獲量データの収集が必要である。また、本報告で示した以外の太平洋中部・南部の愛知県・和歌山県・高知県・愛媛県での漁獲情報を収集する必要がある。

6. 引用文献

- Eggleston, D. (1972) Patterns of biology in the *Nemipteridae*. J. mar. Biol. Ass. India., **14**, 357-364.
- 岩崎行伸 (1999) 駿河湾沿岸域のイトヨリダイの魚体組成と産卵期. 東海大海洋研研報, **20**, 187-195.
- 小林知吉 (2004) 日本海南西海域産イトヨリダイ *Nemipterus virgatus* の性比. 山口水研セ研報, **2**, 23-25.
- 小枝圭太 (2018) イトヨリダイ. 「小学館の図鑑 Z 日本産魚類館」中坊徹次編, 小学館, 東京, 282-282.
- Mio, S. (1965) The determination of the age and growth of *Nemipterus virgatus* (Houttuyn). Bull. Jap. Sea Fish. Res. Lab., **15**, 79-83.
- Takahashi H., K. Kobayashi and K. Suzuki (1989) Gonadal morphology of threadfin breams, *Nemipterus bathybius* and *N. virgatus*: Evidence of rudimentary hermaphroditism. Jap. J. Ichthy., **36**, 82-89.
- 和田宗一郎・阪地英男(2024)豊後水道西部に生息するイトヨリダイの成長と成熟の雌雄による違い. 日水誌, **90**,400-407.

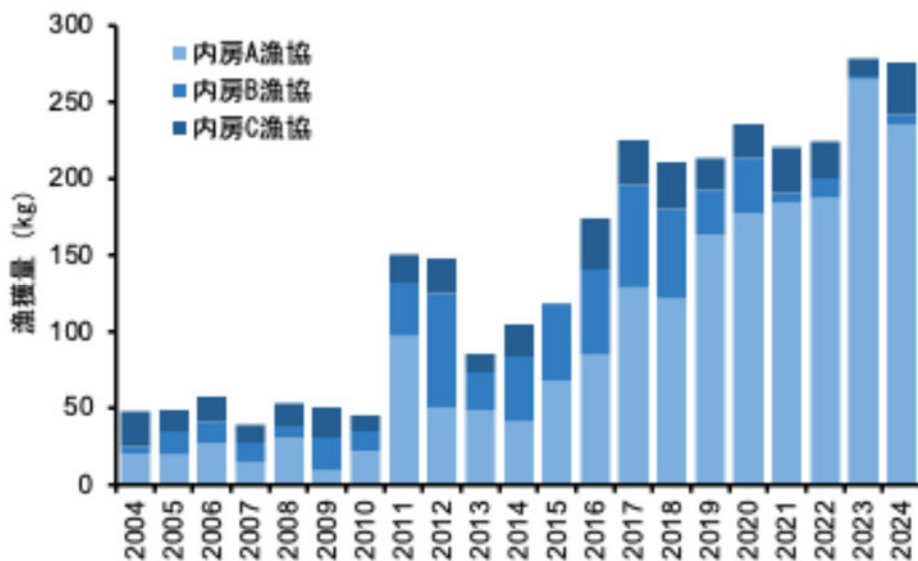


図1. 千葉県主要3漁協におけるイトヨリダイの漁獲量の推移（内房C漁協の2015年は1～3月のみ）

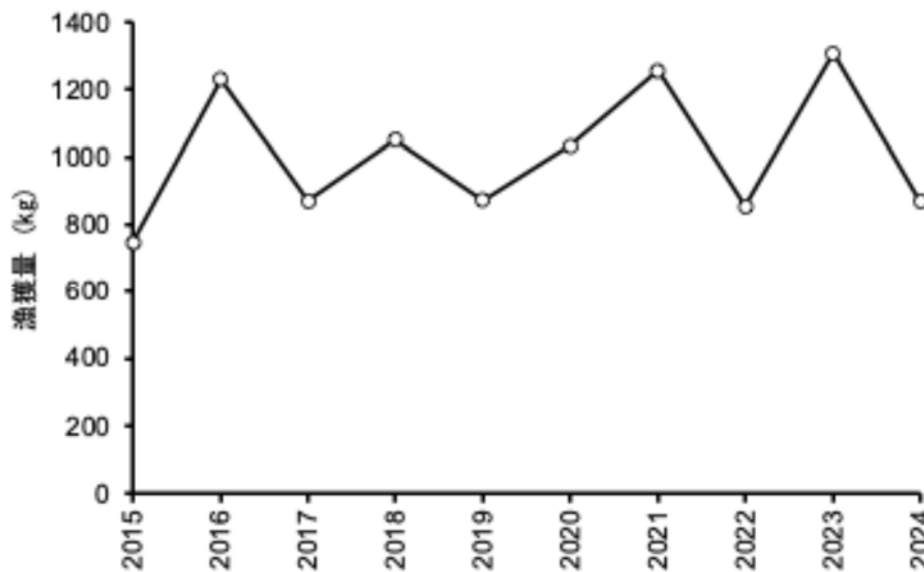


図2. 神奈川県的主要3港におけるソコイトヨリを含むイトヨリダイの漁獲量の推移

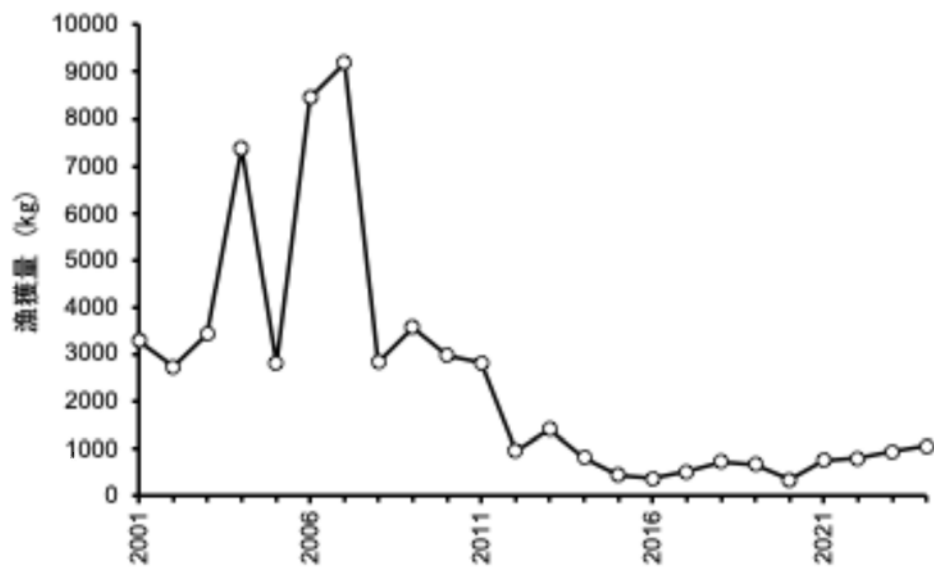


図3. 静岡県の本標漁協の小型底びき網によるソコイトヨリを含むイトヨリダイの漁獲量の推移

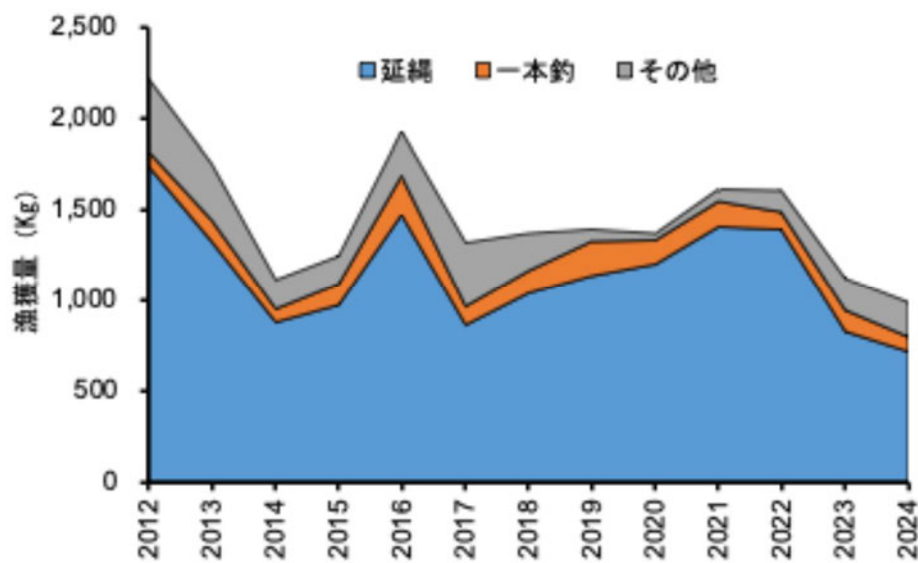


図4. 三重県の本標漁協におけるソコイトヨリを含むイトヨリダイの漁業種類別漁獲量の推移

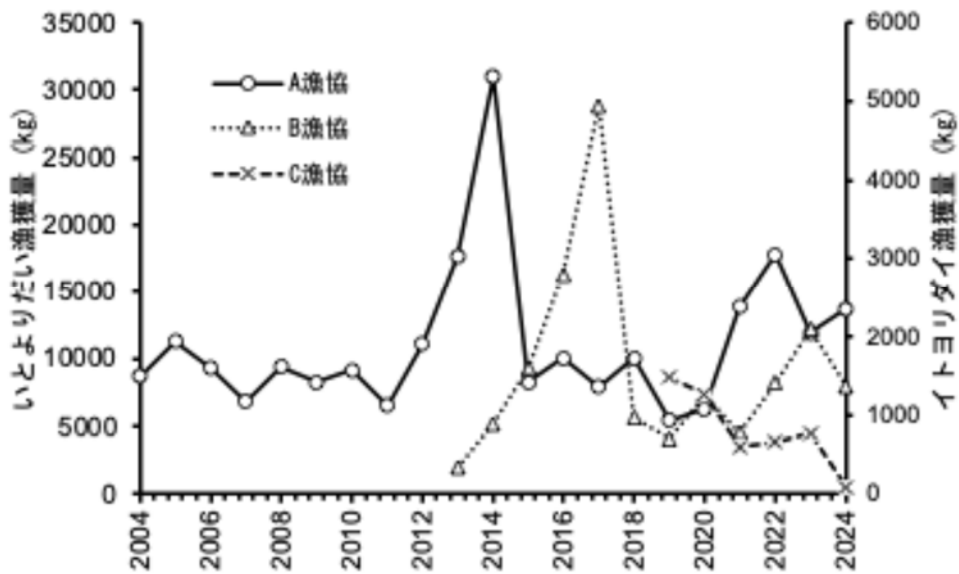


図5. 徳島県のA漁協におけるいとよりだい類（ソコイトヨリを含む）漁獲量とB・C漁協におけるイトヨリダイ漁獲量の推移

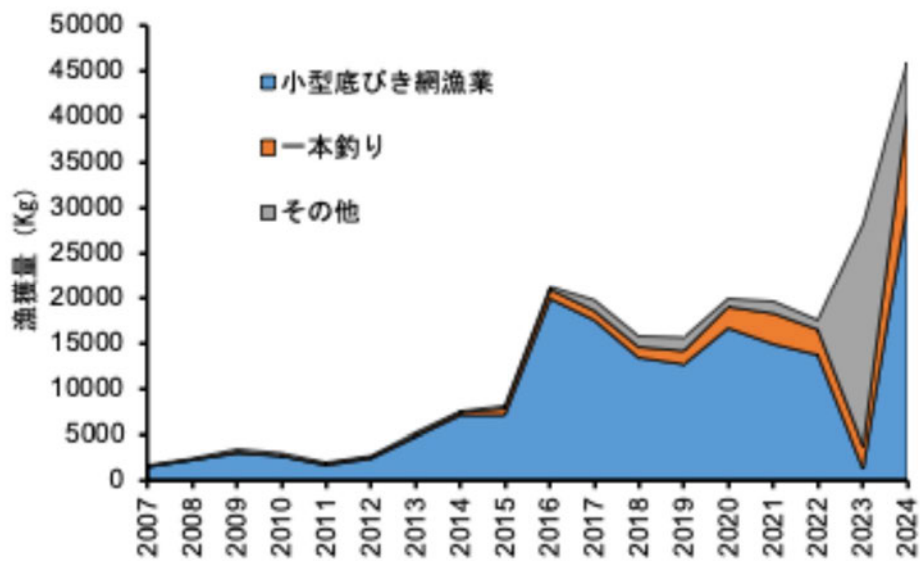


図6. 大分県におけるイトヨリダイ漁業種類別漁獲量の推移

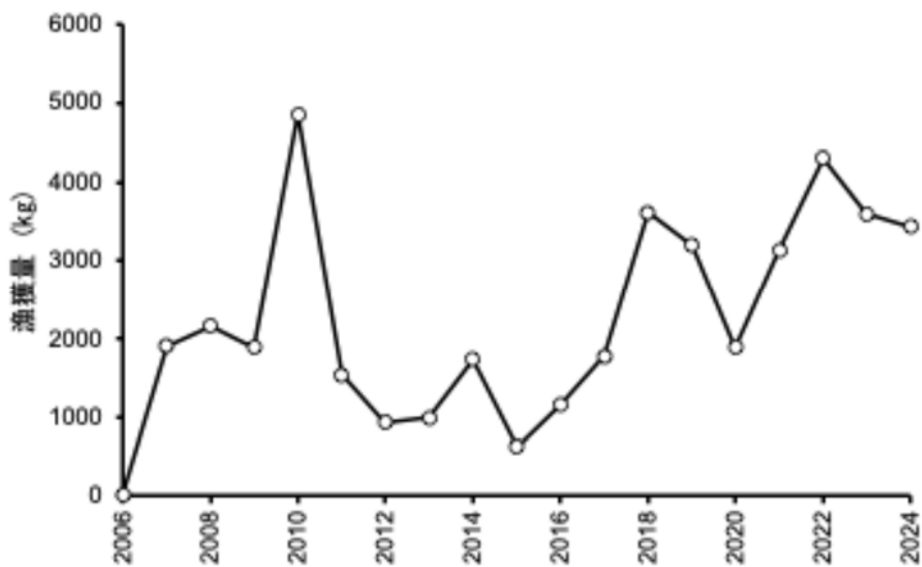


図7. 宮崎県におけるソコイトヨリを含むイトヨリダイの漁獲量の推移

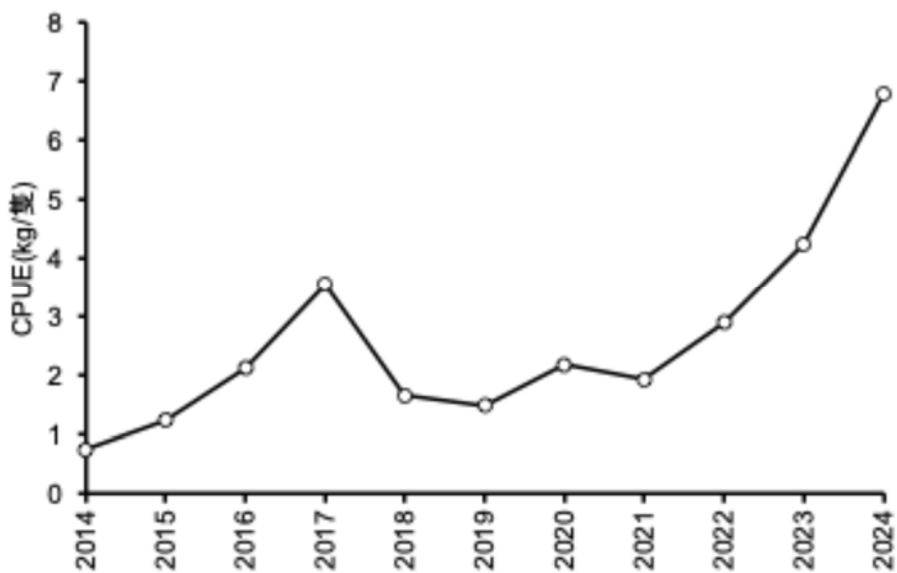


図8. 徳島県B漁協におけるイトヨリダイのCPUE（1隻1日あたり漁獲量）の推移